

単元名

「日本の伝統芸能を味わおう『能』一羽衣」

挑戦問題 『能の魅力を伝えよう』

本単元で育成する資質・能力

情報収集・判断 思考力・表現力 探究・挑戦 責任感・使命感

期待される生徒の変容

授業の初めに、「ALTに能の魅力を伝えよう」という挑戦問題を設定し、日本人でありながら「日本の伝統音楽」に触れる機会が少ない生徒の学習意欲の高揚を図るとともに、既習事項である狂言と能の相違点を発見させることで、それぞれの特徴や音楽的な工夫について感じ取らせる。次に、能の基礎知識や謡・囃子についての知覚・感受を基にして、「羽衣」の場面を絞って鑑賞し、能の魅力を味わわせ、その良さについて根拠をもって批評させることを通して、古くから今日まで受け継がれてきたその価値について気付かせることが期待できる。さらに、英語の時間での「我が国の伝統文化を外国の人に伝えよう」等、教科横断型課題解決学習を通して、グローバル人材の育成を図ることが期待できる。

平成28年度取組より

After 【生徒の振り返りより】

- ・狂言と違い、能は謡いで表現していることが分かった。楽器が入るだけで雰囲気が変わりました。
- ・能では主人公ではあるシテが面をつけて演じること、明るい場面では謡いかけ声が入り、雰囲気を盛り上げているなど感じました。
- ・場面1と場面2の違いをたくさん見つけることができ、暗いイメージから明るいイメージが変わったり場面の雰囲気を想像できた。
- ・狂言には地謡がなく、一人一人の掛け合いで表現していたけど、能には場面が変わると複数で謡い音楽にしていた。
- ・能は謡い方や謡いの人数、リズムや音色などで人物の気持ちが表現されていることがわかった。
- ・謡と言っても、楽器があるときは本当に歌っているようだが、楽器が無いとセリフのように聞こえる。
- ・登場人物の感情を謡で表現していることが凄いなと思った。また、面の工夫など細かなところがとても不思議で日本の伝統を感じる。



【ICTを活用しての情報収集】

After 【生徒の振り返りより】

- ・羽衣では、天人の独特な謡と囃子、地謡の歌い方の変化によって天人のいろいろな感情を表現している。
- ・能は、能楽師、囃子、地謡が揃って支え合って初めて良い作品を作ることができるのだとおもいます。
- ・能の舞台はさまざまな場面に変化するのでイメージすることが大切だと感じました。狂言と違い能の話はドラマのような感じで進行していくので、そこも魅力だと思う。
- ・能の美しさは、少ない動きで演じることです。極限まで動きを少なくするという事は日本ならではの美しさなのです。ぜひ、多くの人に日本の美を広めたいと思った。



【鑑賞での情報収集後の「復習課題」】

平成29年度指導計画改善のポイント

- ・次年度は、新たに開発した目標に準拠したSループブックを活用することで、学習意欲の高揚と指導と評価の一体化を図りたい。また、そのためにも、ICTの活用を踏襲・発展させ、効果的な情報収集と知識の深化を図るとともに、個人・集団思考での謡の微妙な変化を感受するための有効活用や「振り返り」の時間の確保と充実を図る。
- ・グローバル人材の育成に向けて、学年を増すごとに、地域や我が国の伝統文化の理解が重要であることを生徒により意識化させるとともに、英語科との連携を密にし、「教科横断型課題解決学習」の内容の充実を図ることが重要である。
- ・能の魅力について、生徒にしっかりと伝えたり、発表させたりするためにも、指導者自身が本物の能舞台を鑑賞するなどして、能の魅力を深く理解しておく必要がある。